EMCのバトンタッチ№13〔EMC事業通信特別号〕

今月第13号は六甲部西宮クラブの小野　勅紘ワイズが登壇いたします。

EMC 事業主任の大きな独り言

―ワイズにおける EMC とは？-交流の難しさと願い―

六甲部西宮クラブ
小野　勅紘ワイズ

皆さんは EMC というと、会員を増強するために勧誘活動を行ったり、退会のないように例会を充実させるといった表面上の啓発活動だけだと思っていませんか。では皆さんにお尋ねいたします。皆さんはワイズメンズクラブを辞めたいと思ったことはありますか？　実は私は何度もあります。では、それなのによく今迄在籍して、おまけに皆をリードするお役目の EMC 事業主任まで務めているのか？といわれるでしょう。

ワイズメンズクラブは、YMCA を支えて社会に奉仕を標榜する任意団体ですが、その前に会員同志の“交流”を大切にする団体でもあります。一言に“交流”といっても必ずしも、DBC や IBC だけを差すものではありません。むしろ、ワイズにおける例会や多くの活動全てが、“交流”から成り立っていると思われます。ワイズメンズクラブに集まる会員は、育ちも家庭も、職業も、性別、年齢、受けてきた教育、信仰や主義信条など多くの「違い」を持った人々の集まりです。会社ではこうだったからとか、家庭ではこうだとか、自分が学んだ学校ではこうだったといった違いは当然、全ての皆さんが持ったまま参加しています。国際に目を転じれば、国籍、政治体制や歴史、言語、肌の色、環境、教育、宗教、住まい、食事など何と違いの多いことでしょうか。

そういった違いはワイズに入ったからといって一朝一夕に変わるものではありません。まずはそういった“違い”を認めることからスタートしなければなりません。そんな違いの多い団体にどうして皆さんは集まるのでしょうか。私は会社や家庭では味わえない“癒し”があるからだと思います。江戸時代、男尊女卑の時代に阻害された女性たちが駆け込んでいた“駆け込み寺”というものがありました。現在でもその役割を担っている組織やボランティアも存在するでしょう。いわばワイズはそんな社会や家庭とは離れた一種の“駆け込み寺”的な役割も持っているのではないかと思っています。会社や家庭で面白くないことがあっても、ワイズに行けばしっかり握手で迎えてくれて、話を聞いてくれる仲間がいるということで、集まっているでしょう。一方「一身上の都合」とか「自己都合」などの理由で奥ゆかしく去っていかれる方の中には、ワイズで話を聞いてもらえなかったからという裏返しでもあったのかも知れません。実は先にお話しましたように、私のような方も多いのではないかと思っています。そんな方を少しでもワイズに留まっていただきたいという願いを込めて務めていることも事実です。30人の内、29人に話を聞いてもらえなかったとしても、たった1人に話を聞いてもらえたら、人は癒されるものです。聖書の中によく出てくる100匹の羊を飼っている羊飼いが、居なくなったたった1匹の羊を大切に探すという有名なお話にも似ています。（マタイによる福音書18章10－14節、ルカによる福音書15章3－7節）

人の話を聞くときは「聴く」という「傾聴」の姿勢が大切です。「聴く」とは字のごとく「耳」と「目」に

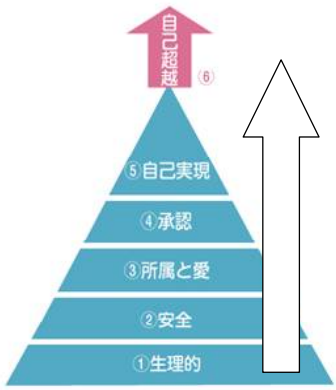
「心」を「＋」して「聴く」ことなのです。そこには
① 無条件の肯定
② 相手の話を聴いたらまずは、ありのままを受け入れて、自分の経験や考えを押し付けない、また秘密を守ること
③ 最後にお互いが理解し合って（自己理解）人生において自己実現できるように努力し合うこと

★これらの「聴く姿勢」は現在、カウンセリングの基本姿勢として、心理学者のカール・ロジャーズ博士が提唱した理論「来談者中心療法」として多くの分野で普及実施されています。

☆その際には出来るだけ「D行の言葉」例えば「だって」「でも」「どうして」「だから」「どうも」などの言葉は使用しない方が人間関係が良くなると言われます。これらは相手を否定する言葉だからです。私たちは意見の違う相手に出会うと真っ向から対立しがちです。そこには自己主張に逸るあまり相手を思いやる姿勢が薄れてしまい、言葉が強くなる傾向があります。そこはぐっと堪えて、まずは優しく相手の話に「耳」と「目」に「心」を「＋」して「優しさ」を傾ける姿勢を持ちたいものです。ここには必ずしも「口」は出てきません。「見守り」といった言葉を必要としない「ノンバーバル・アプローチ」もあるからです。

私たちは会員を増やしたいという EMC の前にまずは、会員同志の基本的な“交流”を大切にしたいものです。その中から仲間は自然と増えるものと期待します。交流はまずは家庭から始まります。マザー・テレサの言葉です。“愛は家庭から” 家庭は一番小さなしかも最初の“交流”の場でもあるのです。

EMC は交流から奉仕へ！



マズローによる「満足度欲求5段階説」の自己実現への道

※EMC 事業通信第7号に掲載したものが、枠取りが悪く正常にご覧いただけていませんので、改めて特別号にて掲載いたしました。